

私立大学情報教育協会
平成24年度
大学職員情報化研究講習会
基礎講習コース

B-2班

1

テーマ1

責任ある情報を公表するための
職員の役割

2

テーマ1: 責任ある情報を公表するための職員の役割(1)

情報を公表する意義、目的

大学には補助金(公的資金)が投入されている: 背景



法令による義務的公開 ≪消極的公開≫: 現状

3

テーマ1: 責任ある情報を公表するための職員の役割(2)

情報公表の現状と理想

×: 公表するデータはあったとしても、
そのデータを加工して高校生にわかりやすく見せるようにしていない



◎: 大学は高校生が求めている形で情報を提供出来ている
= ≪積極的公表≫

4

テーマ1: 責任ある情報を公表するための職員の役割(3)

教育情報の作られかた

- ◆学部ごとに教育情報の出し方が異なっており、統一されていない。
- ◆学内に情報が散在しており、情報公表の統一的なポリシーがない
- ◆事務職員の部署が縦割り。公開したい情報を集めるために各部署に依頼して、情報を出してもらわないといけない。時間がかかるし、効率的ではない。職員や各部署が誰でもすぐにアクセスできるようにすべき。



各部署が参加することにより統一性のある情報公表を行う

≪合意形成のプロセス≫

5

テーマ1: 責任ある情報を公表するための職員の役割(5)

責任ある情報を公表するための
職員の役割についてのまとめ

ニーズに対応する形で変換し、情報を発信することが職員
の役割

情報発信をPDCAを回し、継続的に行う

6

テーマ2

学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割

7

テーマ2: 学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割(1)

教育の質的転換の必要性



社会のニーズの変化に対応するため

- ・国際競争 → 日本はもちろん、世界からも選ばれる大学へ—情報公開の必要性
- ・企業が求める人材 → 学力、即戦力、グローバル人材
- ・地域社会が求める人財 → 大学の社会的責任の追及、社会の問題を解決し未来を切り拓くリーダー
- ・学生 → 個人が自身を「生かす」ことができる力

【現状】

- ・学生自身の問題 → 時間がない
- ・授業の質の問題 → 授業がつまらない、課題を出さない、その場にいる学生にしか教育を発信していない
- (・学力の問題 → 学力低下・上位層と下位層の格差)

テーマ2: 学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割(2)

教育の質的転換のための準備

● 仕組み

カリキュラムマップとDPとの連携

● 学修時間を増やす

シラバスに予習や課題を記す(ICT)

受けられなかった授業のフォロー体制を強化(ICT)

● 授業の質の向上

教員、職員、学生で授業をつくっていく←アクティブラーニング

名物教授の授業を発信→教育情報の公表(ICT)

学生が講義テーマを決める、上級生から下級生への講義→自分で学び考える力

9

テーマ2: 学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割(4)

教育の質的転換に職員の果たす役割

- 現状の授業内容を把握する(アンケートetc.)
- 教授や大学の方針またはDPを学生にも分かるように読み解き、発信する
学生や他社会ニーズにアンテナを張り、大学教育を創る
インストラクショナルデザイナー的役割
- 創った仕組み、授業、しかけのPDCA



学生と教員の間に入り、教育をつくる

10

テーマ2: 学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割(5)

学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割についてのまとめ

激しい社会変化の中にある学士教育課程において現在の社会ニーズの変化への対応が必要となっている。

現在は学生の主体性や自発性が今まで以上に求められるところとなっており、そのニーズに応えるべく大学は学士課程教育を見直し、学生がより主体性を持ち意欲的な学修を進めるよう務める必要がある。

大学はICTを用いた学修時間の確保に努め、大学職員は変化する教員と学生の中に入り教育を作る、また情報の公表を担うこととする。



11

まとめ

- ・情報公開に耐えうる形に教育内容を充実させる
- ・教育内容の充実を積極的に公表していくべき

12

テーマ1: 責任ある情報を公表するための職員の役割(4)

公表する情報の作り方

◆職員が行う情報の作り方の流れ

先生待ちではなく、職員自分たちで主導して行っていくべき！

1、各部署で数字を出す

2、高校生のニーズを集める。エビデンス(証拠を集める)

→ニーズの集め方の例: 新入生に聞く。オープンキャンパスで聞く。外部の調査会社に調べてもらう。入学説明会でアンケートを取る。保護者面談・教育懇談会で聞く、教育情報を見た人から「ほかに知りたいことはないですか?」と聞く。

ソーシャルネットワークの活用: ツイッター、facebook 等

情報を発信しっぱなしではダメ。

3、広報戦略を立てる。大学のブランド化。情報公開の目的をはっきりさせる。

4、数字を戦略に合わせて加工する。

5、合意形成

教授会、理事会のどちらがやるか? 委員会を作るか? 職員が合意形成の場を作る。

★情報の保証

・内部監査機能: 学内のデータを出す部署とデータを取りまとめる部署でのダブルチェック

・外部監査外部委員会の設置。